

ががく
雅楽とは

雅楽は約1200年前から伝わる日本が世界に誇れる文化です。もともとは中国やアジアのいろいろな地域から渡ってきた音楽や舞のことを指します。奈良時代から平安時代のころ、現在の日本の雅楽ができました。

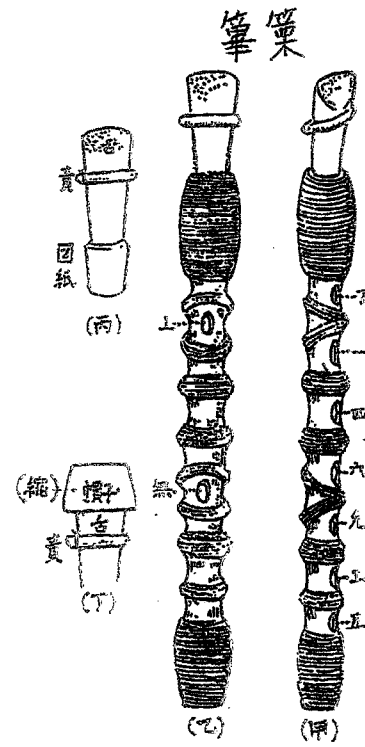
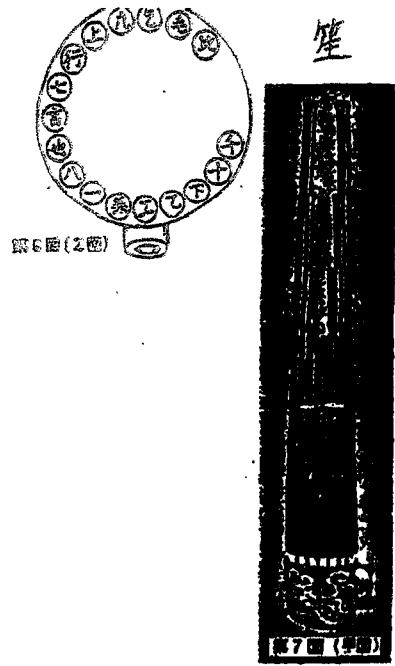
ががく がつき
雅楽の楽器

しょう
笙

「笙」は、長さ50cm、直径7cmの管楽器（息を吹き加えて音を出す楽器）です。その形から、鳳凰をまねた姿だと言われています。「笙」の音は、古くから「天から差し込む光」を表していると考えられていました。

ひかり
篳篥

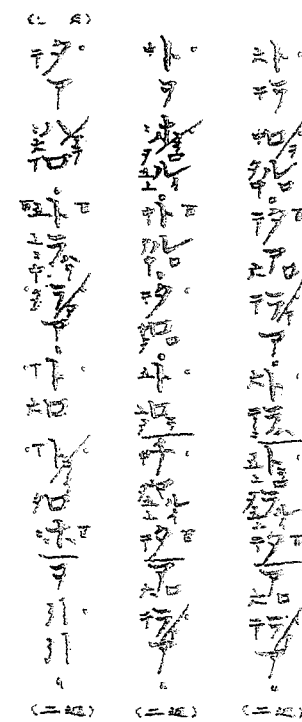
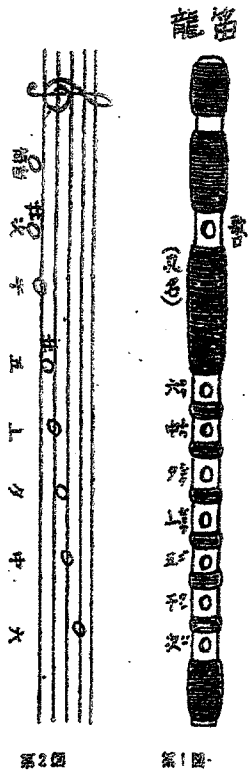
「篳篥」は、長さ18cm、直径は、約1.5cmの管楽器です。表は7つ、裏は2つの穴があります。音は、見かけより大きいです。また、「篳篥」の音は地上で生活する人間の声を表しています。



りゅうてき
龍笛

「龍笛」は、長さ40cmの横笛です。穴は7つあります。「龍笛」はその名のとおりに、空を舞う龍の鳴き声であると言われており、天を表す「笙」、空を表す「龍笛」、地を表す「篳篥」で合奏することによって、ひとつの宇宙を表していると言われます。

雅楽の楽器は笙・篳篥・竜笛などの管楽器の他に、琴（琴）・琵琶などの弦楽器、鞆鼓・太鼓・鉦鼓などの打楽器があります。



越殿楽

小曲 五拍子 龍笛入

越殿楽



